

公益社団法人日本放射線腫瘍学会
2025 年度（2025 年 9 月 1 日～2026 年 8 月 31 日）事業計画書

1. 学会等の学術的会合の開催 及び 学術研究等の支援

- 第 38 回日本放射線腫瘍学会(JASTRO)学術大会を 2025 年 11 月 27 日～11 月 29 日東京国際フォーラム（東京都）にて開催し、第 38 回学術大会報文集を発行する。
- 第 28 回小線源治療部会学術大会（2026 年 5 月 22-23 日/青森県）、第 63 回生物部会学術大会第 54 回制癌シンポジウム（2026 年 5 月 15-16 日/岐阜県）、第 39 回高精度放射線外部照射部会学術大会（2026 年 3 月 14 日/東京都）、第 1 回粒子線治療部会学術大会（2026 年 7 月 24-25 日/東京都）を開催する。
- 国際関連
 - ◇ 第 38 回学術大会にて、日本放射線腫瘍学会（JASTRO）韓国放射線腫瘍学会（KOSRO）中国放射線腫瘍学会（CSRO）の日中韓 3 カ国放射線腫瘍学会合同シンポジウム（2025 年 11 月 28 日）開催する。
 - ◇ アジア放射線腫瘍学連盟（FARO）への活動支援を行う。
また、FARO meeting 2025（2025 年 11 月 13-15 日, Ching-Mai, Thailand）における合同シンポジウムへ代表等派遣を行う。
 - ◇ 日本-台湾放射線腫瘍学シンポジウム（2026 年 9 月神戸市）開催準備の支援を行う。
 - ◇ 米国放射線腫瘍学会（ASTRO）、欧州放射線腫瘍学会（ESTRO）へ代表者派遣を行う。
- 放射線医学・治療の学術・医療技術の相互理解を深めるため、MOU に基づき第 38 回学術大会にて、日本緩和医療学会との合同シンポジウム（2025 年 11 月 27 日）、及び日本放射線影響学会との合同シンポジウム（2025 年 11 月 29 日）を開催する。
- 優れた学術研究・研究課題の選出を行い、その研究支援の一部及び論文投稿の助成を行う。
- 放射線腫瘍学の研究等を目的とした外部団体に対して助成を行う。
- がん放射線治療看護セミナーの開催の支援を行う。
- 研究者等の奨励を目的として、阿部賞・梅垣賞の顕彰事業を行う。
- 放射線治療における優れた研究成果を広く還元することを目的として、関連する他領域の学術団体での発表を支援し助成する。
- 医師・メディカルスタッフ（診療放射線技師・医学物理士・看護師・研究者）の海外留学・研修の支援事業を行う。

2. 学会誌等の刊行

- 英文機関誌“The Journal of Radiation Research”を計 6 回オンラインにて発刊する。
- 世界に向けて広く発信する英文機関誌の普及・向上を目的として、Highly cited award、優秀査読者賞、JRR 誌優秀論文賞の顕彰事業を行う。
- ニュースレターを年 4 回刊行する。

3. がん等の放射線治療についての普及、啓発活動

- 放射線治療についての理解・普及を目的として、当学会ホームページ等に掲載された一般向けコンテンツ(動画・アニメ・漫画他)やパンフレットを活用し、情報提供・放射線治療 PR 活動を実施する。
- がん放射線治療の最新情報、学術大会の情報について、マスコミ向けに情報発信を行う。
- 医学生・研修医へのがん等の放射線治療についての啓発活動の場として、医学生・研修医のための放射線治療セミナー(東京・大阪/2026年7月)を開催する。また、各ツール(動画、パンフレット、SNS、学会 WEB サイト)を活用し、広報活動を行う。医学生研修医セミナー30周年記念誌の作成を行う。
- 転移性脊椎腫瘍に対する体幹部定位放射線治療(脊椎 SBRT)普及を目的としたハンズオンセミナーの開催(2026年)、教育資材(講義動画)の掲載を行う。また、実施状況の調査を行う。
- 新たな小線源治療技術の普及のため、小線源治療手技の動画コンテンツを掲載する。高度な小線源治療技術を学ぶ機会の提供のため、指導講師推薦等の支援を行う。
- 緩和的放射線治療の普及のため、様々な学会・研究会等を通じて情報発信に努め、一般・患者さん向けリーフレット、及び効果的な普及を行うための好事例集(リーフレット)の配布も行う。また、一般市民、他科医師向けの分かりやすい緩和的放射線治療情報を掲載したホームページを作成する。
- 地域等の放射線治療の進展を目的として、地域貢献賞の顕彰事業を行う。

4. がん等の放射線治療の標準化に資する事業

- 放射線治療従事者への教育を目的として、教育講演を行い、講義コンテンツを掲載する
- アーカイブ化した先達の症例スライドや資料を教育に活用する。
- 放射線治療専門的知識・技術を有する専門看護師の教育等を支援する。
- 専門性に特化した教育的事業として、第10回小児がん放射線治療セミナー(2025年9月20日)、第16回放射線生物学セミナー(2026年3月21日)、第14回放射線治療・物理学セミナー(2026年7月)、第27回放射線腫瘍学夏季セミナー(2026年8月1・2日)を行う。
- 国際レベルの放射線治療標準化を目的として教育セミナーESTRO School を日本においてESTROと共催する(2026年6月12-14日)。
- 細胞・分子レベルの放射線治療標準化を目的として第7回RI内用療法セミナーを実施する(2026年2月28日)。
- 小線源治療技術教育のため第4回小線源治療ハンズオンセミナーを開催する。また婦人科癌小線源治療人材育成のためハイブリッドファントムを用いたシミュレーション医療教育を行う。
- 粒子線治療に関し、先進医療の枠組みで治療患者の全例登録を行うとともに臨床研究を推進する。また、先進医療実施施設への施設訪問を行う。粒子線治療全例登録(統一治療方針)によるエビデンス創出に努めるとともに、システムティックレビュー等も行い、さらなる保険収載を目的とした活動を行う。
- JASTRO用語集の改訂・メンテナンスを行う。
- 放射線治療専門医認定
日本専門医機構サブスペシャリティ領域認定の放射線治療専門医の試験実施および認定作業を

行う。放射線治療専門医の更新については当面学会認定で作業を継続する。サブスペシャリティ領域治療専門医の更新規準の策定等の準備を行う。

- 治療計画標準化を目的として次回改訂に向け、「放射線治療計画ガイドライン 2024 版に対するモニタリングアンケート調査」を実施する。「放射線性顎骨壊死診療ガイドライン（仮）」の発刊準備を行う。また、放射線治療が関係する各種ガイドラインの作成支援、作成委員派遣及び査読・外部評価を行う。
- 緩和的放射線治療の標準化を目的として「緩和的放射線治療診療ガイドライン」作成を行なう。
- 諸外国への放射線治療技術寄与を目的として「IMRT 物理技術ガイドライン 2023」の英訳版を作成し、JRR 誌への論文掲載を行う。
- 放射線治療施設の実態と個々の治療症例の診療内容を調査することを目的として、全国放射線治療実態調査（症例）を実施する。
- RI 内用療法症例データベースプラットフォームシステムを活用してデータ集積を行う。
- 安全かつ高精度な放射線治療の推進を目的として定める基準を満たす「日本放射線腫瘍学会認定施設」の審査・認定を実施する。
- 第三者出力線量評価認定施設及び第三者出力線量評価認定機関の審査・認定を実施する。
- 安全な放射線治療を推進することを目的として、アクシデントの事例の原因を調査・解析し、注意勧告を行う。また、依頼のあった第三者調査を実施する。
- 放射線治療における診療の質指標 Quality Indicator を用いた WEB 解析システムによる全国調査の結果を解析する。
- 放射線治療における機器の精度管理、照射計画の検証、照射計画補助作業等を担当する技術者の認定資格整理の方向性について検討する。
- 放射線治療に関する診療報酬制度の適正化と追加・修正を検討し要望活動を行う。また様々な医療技術について費用対効果分析を行う。
- 放射線治療の体系的な分類のため放射線治療診療コード改訂を行う。
- 放射線治療領域：AI-研究用データベースシステムを活用したデータ集積を元に、AI 研究計画を立案する。

5. その他当法人の目的を達成するために必要な事業

- 常勤医の少ない施設・地域における支援のため、各症例相談窓口を設置する。
- 男女共同参画・働き方改革、ダイバーシティ推進のため「意見募集：目安箱」を設置する。
- 若手・中堅会員の意見・課題の集約、教育機会を提供する。